

解析学入門

責任者・コーディネーター	情報科学科数学分野 長谷川 大 助教		
担当講座・学科(分野)	情報科学科数学分野		
担 当 教 員	長谷川 大 助教		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期 間	前期		

・学習方針（講義概要等）

各学部高学年次専門科目、将来の専門研究への接続基礎として本科目が設置された。将来必要と推測される数学としては微分方程式、ベクトル解析、フーリエ級数などの解析学がある。例えば、微分方程式は力学現象をはじめ薬物動態においても基礎として頻繁に用いられ、CT や MRI の解析ではベクトル解析、フーリエ級数は当然のものとして扱われる。本講義で扱う解析学分野は多岐に渡るが、細部に入らず、基礎知識、概念、思考方法や簡単な計算習得の入門程度に留まる。

・教育成果（アウトカム）

微分方程式、ベクトル解析、フーリエ級数の基本概念、知識、思考方法等について理解、整理、計算する作業を通じて、将来の研究で要求される応用数学の導入基盤が形成される。また、将来、応用数学が必要とされる際には、戸惑うことなく関連分野を自立的に調べて適用検討することができる。
(ディプロマポリシー：2)

・到達目標（SBO）

1. 微分方程式の基本概念を理解し、基本的な微分方程式を解くことができる。
2. ベクトル解析の基本概念を理解し、初歩的な計算をすることができる。
3. フーリエ級数の基本概念を理解し、初歩的計算をすることができる。

・ 講義日程
【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/23	金	3	数学分野	長谷川 大 助教	微分方程式(1) 概説 1. 微分方程式とは何かを説明できる。 2. 微分方程式の解を説明できる。 3. 与えられた等式から微分方程式を作ることができる。
4/30	金	3	数学分野	長谷川 大 助教	微分方程式(2) 変数分離形微分方程式 1. 変数分離形微分方程式を解くことができる。 2. 同次形微分方程式を解くことができる。
5/6	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	微分方程式(3) 線形微分方程式 1. 線形微分方程式を解くことができる。 2. ベルヌーイの微分方程式を解くことができる。
5/13	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	微分方程式(4) 2 階定数係数線形微分方程式 1. 2 階定数係数同次微分方程式を解くことができる。 2. 微分演算子を使うことができる。 3. 2 階定数係数非同次微分方程式を解くことができる。
5/20	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	微分方程式(5) 応用 1. 具体的な事象に対して微分方程式を作り、解くことができる。

5/27	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	ベクトル解析(1) 代数・微積分① 1. 空間ベクトルの内積および外積を計算できる。 2. ベクトル関数の微分ができる。
6/3	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	ベクトル解析(2) 代数・微積分②/空間曲線 1. ベクトル関数の積分ができる。 2. 空間曲線の弧長と接ベクトルを求めることができる。
6/10	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	ベクトル解析(3) スカラー場・ベクトル場/線積分 1. スカラー場とベクトル場の違いが説明できる。 2. スカラー場およびベクトル場の線積分が計算できる。
6/17	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	ベクトル解析(4) 偏微分/重積分/曲面 1. 多変数関数の偏微分ができる。 2. 2変数関数の重積分ができる。 3. 曲面の単位接ベクトルを求めることができる。
6/24	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	ベクトル解析(5) 面積分 1. スカラー場およびベクトル場の面積分が計算できる。
7/1	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	フーリエ級数(1) 級数展開/フーリエ級数① 1. 級数展開を概説できる。 2. フーリエ級数を概説できる。 3. 周期 2π を持つ関数のフーリエ級数を求めることができる。

7/8	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	<p>フーリエ級数(2) フーリエ級数②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般の周期を持つ関数のフーリエ級数を求めることができる。 2. フーリエ余弦級数・正弦級数を求めることができる。
7/15	木	1	数学分野	長谷川 大 助教	<p>フーリエ級数(3) フーリエ級数③</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フーリエ級数の収束を概説できる。 2. 項別積分を行い、フーリエ級数を求めることができる。
7/19	月	1	数学分野	長谷川 大 助教	<p>総合問題演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合問題に接することにより、総合的理解を深め、具体的扱い方法を習得できる。 <p>事前学修：前回までに解いた演習問題で間違っていた問題を復習する。 事後学修：講義中に解いた総合問題で間違っていた問題を復習する。</p>

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	基礎解析学	矢野健太郎 他	裳華房	1993
参	微分積分	和達三樹	岩波書店	1988
参	ベクトル解析	戸田盛和	岩波書店	1989
参	常微分方程式	矢嶋信男	岩波書店	1989
参	フーリエ解析	大石進一	岩波書店	1989

・成績評価方法

定期試験 70%、レポート 30%で評価する。

・特記事項・その他

1. 数Ⅲ履修者、特に三角関数・指数関数・対数関数を含む関数の不定積分および定積分を部分積分法または置換積分法を用いて求めることができる学生を対象とする。
2. 各授業の中で、演習問題を学生同士で教えあう時間を設け、全体および個々の理解を深める。
3. 事前学習：WebClass にアップロードされた該当回の授業プリントを通読する。
4. 事後学習：授業プリントの演習問題を解き、下記のようにレポートを作成する。
5. 各回の事前・事後学習は合わせて最低 1 時間 45 分を要する。
6. 解いた演習問題は清書してレポートとして提出する。レポートは A4 サイズのレポート用紙の表のみを使用し、学部・学生番号・氏名を記入した表紙をつけて期限内に提出する。上記のように講義中に演習問題を解く時間を設けるので、講義にはレポート用紙を準備しておくこと。
7. 提出されたレポートは添削して返却し、翌回の講義で解説を行う。返却されたレポートは WebClass にアップロードされた解答解説や該当回の授業プリントを用いて復習すること。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート PC	1	資料作成、講義プレゼン用
講義	教室付属 AV システム一式	1	講義プレゼン用